

令和6年度 中部版スクラム教育事業【新規事業】

「学習者主体の学びの実現に向けた教育 DX 推進研修会」

令和6年8月7日（水）、湯梨浜はごろもホールにて標記研修会を開催しました。中部版スクラム教育事業としては初開催となる研修会。第1部では、講義・実践動画視聴・演習等を通して、教育DXによってこれから求められる授業イメージを明確にすることができました。第2部では、参加者による情報交換・協議を通して、これからの授業に向かうために参加者自身の立場・役割として、校内でどのような取組ができるのか、考えをひろげることができました。



◆参加者振り返りより

—第1部：これからの授業イメージをつくる（講義・演習、実践紹介等）

- ◆これからの教師は、子どもの思考を想像する力が必要であると感じた。これまでは、教師が立てた計画に対するつまずきを想定していたが、それでは教師主導の授業展開になってしまい、子どもの主体性を引き出すことができない。子どもが課題をもって取り組めるように、単元前半の動機づけ、なぜ学ぶのかという価値を語り、伝えていきたい。また、これまでの他者参照は答えの共有になっていたと感じたので、視点を共有する他者参照を行っていきたい。
- ◆一気に複線型の学習をめざすのではなく、まずは部分的に子どもたちに「課題を自分で決める」、「学習の過程を委ねる」、「他者の考えを参照しながら学ぶ」こと等を取り入れていきたい。また、職員間でも「これからの授業の在り方」について広めていきたい。

—第2部：これからの授業へ向かうために（情報交換・協議）

- ◆まずは、複線型の授業に挑戦していくことが大切であると感じた。単元目標に到達するために、子ども自身が計画を立て、学んでいく授業を展開していきたい。そのためには、他の先生方の授業を参観することや今日視聴した動画のようなものを定期的に見ていくことが今の自分のできることはないかと考えた。また、自分が挑戦したことを他の先生方に共有していくことも大切であると感じた。良かったところ、うまくいかなかったところを共有し、授業改善を行っていきたい。管理職、研究主任、情報担当が密に連携をとり、子どもに必要な力を身につけさせ、主体的、対話的で深い学びへとつなげたい。
- ◆授業そのものをどう変えていくか、挑戦される先生方は様々な問題の壁に立ち向かわれると思う。立ち向かわれる時にその場面にあった提案やアドバイスがどこまでできるかが課題。「環境面では問題なし」となれるような力強いバックアップができるよう、情報収集・提供・共有をめざしたい。